

# 百人一首 上の句と下の句を線で結びましょう ①

春過ぎて  
夏来にけらし  
白妙の

わたの原  
漕ぎ出でて見れば  
ひさかたの

契りおきし  
させもが露を  
命にて

かくとだに  
えやは伊吹の  
さしも草

小倉山  
峰ののみち葉  
心あらば

秋の田の  
かりほの庵の  
苦をあらみ

雲居にまがふ  
沖つ白波

さしも知らじな  
燃ゆる思ひを

わが衣手は  
露に濡れつつ

衣干すてふ  
天の香具山

あはれ今年の  
秋もいぬめり

今ひとたびの  
みゆき待たなむ